

令和元年6月15日現在

機関番号：34401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26463266

研究課題名(和文) 臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化するICT教育プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development and evaluation of an ICT education program to enhance critical nurses' reflection skills

研究代表者

池西 悦子 (Etsuko, Ikenishi)

大阪医科大学・看護学部・教授

研究者番号：90280106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化するInformation and Communication Technology(以下、ICT)教育プログラムの開発と評価であった。臨床看護師は、経験を内省する学習スタイルを好む一方で、理論知の実践への適用が課題であった。そこで看護実践事例を動画化し、複数の理論知を提示し分析に活用するICTプログラムを開発した。実施前後で学習スタイルや批判的思考態度に有意差はみられなかったが、分析視点の拡がり、問題抽出数の増加がみられ、多面的な分析を促進することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、臨床看護師の学習スタイルの特徴を明らかとなり、その特徴に対応した臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化する教育プログラムが開発できた。また、スマホなど身近にあるインターネット環境からアクセス可能で、場所や時間の制約をうけないICT教育プログラムが開発できたことで、交代勤務を行う臨床看護師が参加しやすい学習環境を整備することができた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop and evaluate an Information and Communication Technology (following ICT) education program that enhances the critical reflection skills of clinical nurses. Clinical nurses prefer a learning style that reflects their experience; the challenge was in applying theoretical knowledge to practice. We developed an ICT program that animated nursing practice cases and presented multiple theoretical knowledge for analysis. No significant difference was observed in the nurses' learning style and critical thinking attitude before and after the implementation. However, their analytical viewpoint was expanded, and the number of problem extractions they completed increased. The results suggested that the program promoted the nurses' multifaceted analysis skills.

研究分野：看護教育学

キーワード：臨床看護師 リフレクション 批判的分析スキル 学習スタイル 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

看護におけるリフレクションは、看護師の実践的思考であり、その実践的思考を磨くために自己の看護実践を通して学ぶ学習ツールでもある。近年、臨床現場における看護師の成長や実践の質向上に有効であることが認知されるに伴い、看護学生から管理者までリフレクションの学習を取り入れるようになってきている。

リフレクションの学習過程は、リフレクティブ思考のスキルを活用して意識化された経験を想起し、批判的な分析を通して経験に埋め込まれている自己および自己の看護に関する知識の存在を明確にする。それによりその後の実践における質的变化を期待する意図的な学習活動である。このような学習活動の結果、リフレクティブ思考が深まり、経験に向けるまなざしの変化、行動の変化が生じ、既存の考え方や見方や行動の修正が生じる。そして、リフレクティブ思考の習慣が身についた看護師の実践的思考能力は、日々の実践の中で磨かれ、看護実践の質の向上につながると考えられる。

リフレクションのモデルは多数あるが、日本では初学者が適用しやすいといわれる Gibbs のモデルが汎用されている。このモデルは単純すぎて、表面的な記述のレベルとなる可能性があるといわれているが、John's のモデル²⁾は複雑で記述量が多いため、複雑にならず多角的に思考を刺激する方法の開発が必要である。我々が基盤 C 課題番号で開発し、現在修正版の信頼性・妥当性の検証を行っている「リフレクション思考のアセスメントツール」の調査において、リフレクションの学習によって「描写スキル」や「自己気づきのスキル」は向上するが、「批判的分析のスキル」の習得が課題であることがわかった。

批判的分析のスキルは、持っている知識や経験を含めて、現象を客観的、多角的に分析・解釈する思考であり、看護職の持つ暗黙の臨床知を概念化や可視化し、看護のその状況での意味づけや専門性を明確にし、専門職としての成長につなげる重要なスキルである。このスキルの習得を強化するには、自己の思考を客観的に捉え、多角的な思考を意識的に行うトレーニングが必要である。そして、リフレクション教育では自己の傾向に気づくために各自の経験をもとに研修を行うことが殆どであるが、紙上事例であり本人が認識していない部分の欠落があることから状況全体を捉えた分析が難しい。今回、リフレクションレベルを比較するためには、同一教材を用いる必要があるため、これまでの研修で看護師が提供してくれた実際の事例を基に、リフレクションの基盤が学べる典型的な事例の動画教材を開発する。

2. 研究の目的

本研究では、臨床看護師を対象としたリフレクションの教育において、「批判的分析スキル」の習得を強化する新たな教育方法を開発し、その有用性を明らかにする。

教育方法の開発においては、①臨床看護師の批判的分析を促進する要因と学習スタイルを明らかにし、その実態から、批判的分析スキルの強化と学習スタイルに応じたリフレクションの教育プログラムを開発する。そして、②開発した教育プログラムを実践し、批判的分析スキルの変化から評価を行う

3. 研究の方法

研究 1.

目的：臨床看護師の学習スタイルと批判的分析態度の傾向を明らかにし、分類された学習スタイルに有効な教育方法を明らかにする。

対象者：300 床以上の総合病院に勤務する経験 3～10 年の臨床看護師 200 名。

データ収集：①David Kolb が開発した LSI (学習スタイルインベントリー) による調査を実施する。

分析：LSI の結果を 2 軸 4 区分に分類し、各学習スタイルの割合をみる。

研究 2.

目的：臨床看護師と看護学生の学習スタイルと批判的分析態度の傾向と関係性を明らかにする。

対象者：研究者が行うリフレクション研修受講者で同意が得られた臨床看護師 300 名と大学 1 校への調査協力の依頼に対して同意が得られ、かつ文書を用いて口頭で説明し、同意が得られた者で基礎実習および領域別実習を終了した学生 180 名。

データ収集：①David Kolb が開発した LSI (学習スタイルインベントリー) による調査を実施する。

分析：LSI の結果を 2 軸 4 区分に分類し、各学習スタイルの割合をみる。

研究 3.

目的：グループリフレクションにおける批判的分析を促進する要因を明らかにする。

対象者：300 床以上の総合病院に勤務する経験 3～10 年の臨床看護師。

データ収集方法：ミーティングレコーダーでグループリフレクションの発話を録音する。

分析：グループリフレクションの発話機能を質的記述的に分析し促進要因を明らかにする。

研究4.

目的：1. 2. の結果より、リフレクションの教育プログラムを考案する。

方法：①研修で看護師が提供してくれた事例を基に典型事例の動画教材を作成する。動画は、多角的に状況を捉えることが可能となるように当事者の立場に没入できるように当事者目線と全体がわかる映像で構成する。

②ファシリテーションの方法を研究1. 2. の結果から作成する。

③時間、場所を限定せず、可能な時間に教育プログラムに参加できるようサーバー上で管理可能な方法を検討する。

④専門家会議を行い、教育プログラムの内容、方法の適切さについて検討する。

研究5.

目的：開発した教育プログラムを実施し、その有用性を検証する。

対象者：300床以上の総合病院に勤務する経験3～10年の臨床看護師200名。

データ収集：対象者を2群各100名に分け、A群は、研修後批判的思考態度調査およびLSIによる調査を実施し、教育プログラム1～3に取り組み、終了後批判的思考態度調査およびLSIの調査を実施する。B群は、A群同様の調査を実施した後、A群が教育プログラムに取り組む期間（6週間）をあけて、再度調査を実施する。B群はその後教育プログラムに参加する。

分析方法：①批判的思考態度調査、およびLSIの得点を2群間で比較する。②教育プログラム内の記述内容を質的記述的に分析する。

4. 研究成果

研究1

臨床看護師の批判的思考態度、および学習スタイルの特徴が明らかとなった。

有効回答数は71で、臨床看護師の経験年数は4～43年と幅広い経験を持つ対象者であった。臨床看護師の学習スタイルは、拡散型が43%、拡散・調整型が35%、拡散・同化型が12%、4つのスタイルの中央に位置するタイプ（以下中央型）が10%であり、拡散型が多い傾向にあった。拡散型は、経験から学び、内省により対処するタイプであり、経験を内省して学ぶ方法であるリフレクションは、臨床看護師がよく用いる学習方法であると考えられた。一方で、理論的知識などを活用して、実践を通して学ぶ収束型がいなかった結果から、根拠に基づいた実践が求められる専門職でありながら、抽象度の高い知識を実践に活用することが課題であるという結果は、多面的に現象を分析する際理論的知識を活用することの困難さを裏付けている。今後批判的分析を促進する教育的介入として理論的知識を活用し現象を分析するトレーニングが必要であると考えられる。

また、臨床看護師の批判的分析の要素として「熟考」「探究心」「客観性」「論理的思考の自覚」が抽出でき、批判的分析の総得点と学習スタイルには関係は見られなかった。

研究2.

臨床看護師と看護学生の批判的思考態度、および学習スタイルの特徴と関係が明らかとなった。

有効回答数は、臨床看護師293、看護学生90であった。批判的思考態度の特徴は、看護学生がすべての下位尺度で臨床看護師より高く、下位尺度「論理的思考への自覚」「客観性」では、臨床看護師の経験年数が長く、役職のある者で有意に高くなっていた。

図1 看護学生の得点分布

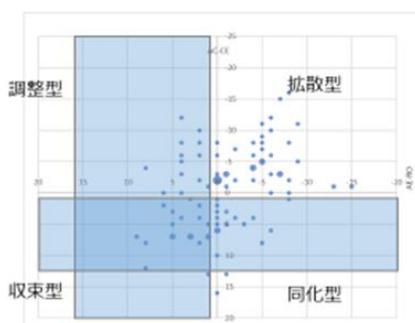
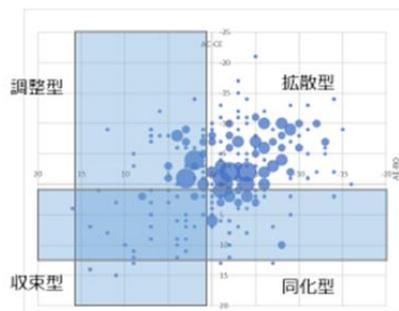


図2 臨床看護師の得点分布



学習スタイルは、看護学生、臨床看護師ともに拡散型がいちばん多く、学習スタイルと批判的思考態度との関係は認められなかった。看護学生、臨床看護師ともに拡散型の学習スタイルが多いのは、日本の看護学教育の在り方や職業的役割を反映している。また、批判的思考態度は、役職やキャリアが影響するといえる。

研究3

グループリフレクションの発話機能は12カテゴリーが抽出された。抽出された発話機能には、批判的分析スキルにより明確となると考えられる「実践の根拠の描写」「他の選択肢の提示」「自己の傾向への気づきの描写」がみられ、それらに至ったフェーズでは、「内省目的の明確化」「異なる立場・状況での推論の促進」の発話機能が確認された。この2つの発話機能は、看護実践の分析をする際に、自身の思考を俯瞰することを促進し、多面的な状況の分析を可能にしたものと考えられる。

研究4.

以上の結果から、批判的分析スキルの育成には、自身の実践経験から導いた暗黙知の明確化に加え、理論的知識の実践における活用を促進する思考のトレーニングが必要であると考えられた。Caper(1978)は看護をその構造から経験知、倫理知、個人知、審美知の4つに分類している。これら4つの知識を活用して多角的に問題を分析し、問題解決方略を吟味することを学習の骨子として、3事例から成るICT教材を作成した。

教育プログラムの概要

- ① 事例概要（文書）
- ② 事例動画（5～6分）
- ③ 事例をみて気がかりに感じたことの抽出
- ④ 事例の問題点の抽出とそれを導いた分析1
- ⑤ 事例に関連した理論的知識の説明をした上で、知識を活用して事例を分析する（5つ）
- ⑥ 事例の問題点の抽出とそれを導いた分析2
- ⑦ 自己の傾向についての記述

研究5.

参加者は20名で、20代4名、30代7名、40代8名、50代1名であった。職位・役割は、副師長5名、指導者5名、プリセプター2名、スタッフ12名であった。プログラム前後の批判的分析の総得点、学習スタイルに有意差は認めなかったが、プログラム前は症状やその原因の推測など身体的側面に偏っていたが、実施後は家族や社会的資源などの社会的側面や、生活への視点が加わっており、批判的分析の視点に変化がみられた。また、症状や反応を看護師の立場に加え、患者の立場から分析するという変化が見られた。このことから、繰り返し経験することにより分析スキルは向上する可能性が示唆された。理論的知識を活用して多面的に分析を行う教育プログラムは、分析視点数の増加や視点の変化から、多面的分析の促進に有用であること示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 2 件）

- ① 池西悦子、真継和子、山下哲平、田村由美：看護学生と臨床看護師の学習スタイルと批判的思考態度の特徴および関連性、大阪医科大学看護研究雑誌、査読あり、9、27-36、2019.
- ② 真継和子、池西悦子、山下哲平、田村由美：看護師の学習スタイルと批判的思考態度の特徴および関連性、大阪医科大学看護研究雑誌、査読あり、7、43-54、2016.

〔学会発表〕（計 3 件）

- ① 池西悦子、田村由美：臨床看護師のリフレクション思考・自己アセスメント指標の信頼性、妥当性の検証、日本看護学教育学会、第27回学術集会、2017.
- ② 池西悦子、真継和子、田村由美：看護リフレクションにおける批判的分析スキルを促す発話機能の検討、日本看護学科学学会、第36回学術集会、2016.

- ③ 池西悦子、真継和子、山下哲平、田村由美：臨床看護師の個人特性およびリフレクシ
ョンの経験が批判的思考態度に与える影響：日本看護学教育学会、第26回学術集会、
2016.

〔図書〕（計 1 件）

- ① 田村由美、池西悦子：看護のためのリフレクシヨンスキルトレーニング、100 頁、看
護の科学者、2017.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：真継 和子

ローマ字氏名：Kazuko, Matsugi

所属研究機関名：大阪医科大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：00411942

研究分担者氏名：山下 哲平

ローマ字氏名：Teppey, Yamashita

所属研究機関名：滋慶医療科学大学院大学

部局名：医療管理学研究科

職名：講師

研究者番号（8桁）：50617420

研究分担者氏名：田村由美

ローマ字氏名：Yumi, Tamura

所属研究機関名：日本赤十字看護大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：90284364

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：竹原三千代

ローマ字氏名：Michiyo, Takehara

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。